

科目名	小児看護学臨地教育実習Ⅰ pediatric Nursing Educational PracticeⅠ		担当教員 (研究室番号)	宮崎 つた子 (207) 前田 貴彦 (206)	教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次 後期	科目 区分	専門科目	選択 区分	コース 必修	単位数 (時間)	3(90)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
										遠隔授業	否
科目 目的	看護学部学生の臨地で展開される小児看護学実習において教育実習を行い、臨地実習の基本的な構成や指導内容を把握し、臨地での学生教育における基本的な教育能力や指導能力を修得する。										
ディプロ マ・ポー リー (DP)	主要なDP	6. 看護実践の場における看護専門職者や看護学生に対する教育能力を修得している。									
	関連する DP	4. 看護教育者あるいは看護実践者としての基礎的な教育能力を修得している。									
到達 目標	1. 同行する実習を履修する学生のレディネスを知ることができる。 2. 同行する実習のカリキュラム上の位置づけや、教育目的・教育目標・評価方法を知ることができる。 3. 同行する実習を実施する医療機関の特徴、特に実習病棟の入院患者や看護・医療の特徴を把握することができる。 4. 実習環境とは何かを理解し、その具体的調整方法を知ることができる。 5. 学生の看護実践や実習記録等について教育的活動を実践することができる。 6. 実践した教育活動を振り返り、看護における教育観の醸成につなげることができる。										
成績評価方法 (基準)	実習内容、臨地実習指導記録、臨地教育実習報告書、学生への対応等を総合的に評価する。										
教科書	必要時、紹介する。										
参考書等	必要時、紹介する。										
受講者への メッセージ	実習指導の醍醐味と難しさを感じ学生とともに成長して下さい。そして、実習指導を通して、自己の小児看護実践に対する姿勢も振り返って下さい。										
備考	可能であれば、小児看護方法Ⅰ・Ⅱの授業に参加する。特に、小児看護方法Ⅱは看護過程の演習を含んでおり、実習に直結する内容である。										
学 習 内 容											
【実習期間】 1 週間を学内実習として、2 週間を臨地指導の実習として行う。 同行する実習は、原則として本学学部3年生が履修する「小児看護学実習」とする。学部生は3つの医療機関に分かれて実習をする が、同行する医療機関は大学院生の希望を考慮し決定する。											
【学内実習】 学部生用の学生便覧およびシラバス、実習要項から同行する実習について学習する。また、学部生を対象とした領域別実習オリエン テーションにも参加し、本科目担当教員や同行する実習の担当教員などの説明も受けながら、自身が同行する実習についての理解を深め る。 看護専門職の先輩として学生からの質疑に応答できるよう、同行する実習が行われる病棟に入院する患者の疾患や治療・検査などの基 礎的な内容を再学習して臨地指導実習に備える。また、小児看護学実習で受け持つことが多い疾患について、学生と同様の記録用紙を用 いて指示された事例について看護過程の展開を行う。											
【臨地指導実習】 1 週目：実習担当教員の学生への指導の実際を見ながら、臨地実習における教育のポイント（実習初日の学生への対応、受け持ち患者 の決定、受け持ち患者のケア場面における学生への指導、実習記録や口頭による学生の思考の確認、臨地実習指導者との調整等）を学習 する。学部学生のカンファレンスでは先輩看護師の立場から学生にアドバイスをを行う。 2 週目：数名の学生の実習記録を点検し、必要なアドバイスを記述または口頭で提示する。また、学生の看護実践に同行し、安全・安 楽に実践できるか監督しつつ、必要な助言や指導を行う。											
2 週間を通し、適宜、本科目担当教員に実習状況や学びを報告し、助言や指導を受ける。											
【教育指導実践に関する記録類】 臨地教育実習での学びや教育的実践については、日々「臨地実習指導記録」に記載する。また、実習終了後、本実習の総括を記載し 「臨地教育実習報告書」を担当教員に提出する。本実習で修得したことについて、ゼミナール等でプレゼンテーションを行う。											